肥田幕府より御沙汰ニ相成候也
取り調べの趣意ニ付ても
拙者義もあんしんと暴發致す
心も当節義は御幕府
たんげんの張良て頼もしく候
二つの内とあげてしまい近て
拙者ども進退いらんものと存候
佐国をいうか日本を進ぜ候
拙者を下町七義はなる見
岩見将を押しならい申さず候
[illegible]もきこぐすしまの
幕の日下町まてをとてしためみ
二の如大發なとをとてしためめし
野中つきみもよろ参り中
道ふかい拓事新ら萬と通ご
ろ共ニ大雪ニ付礼の歌
[illegible]
ありしきるゆき四ま
知らまろ
引まし矢ねて
いくてりやきん

十二月廿五日
佐野竹之介